

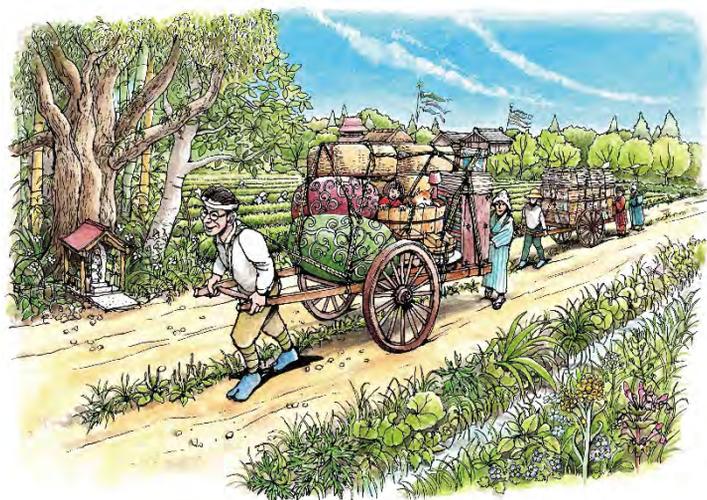
企画展

牧野富太郎、大泉に来て100年 夢の時間を植えつづけて

令和8年4月22日(水)～6月29日(月)

練馬区立牧野記念庭園

2026年は牧野富太郎博士が当園の所在地に転居して100年を迎えます。博士は1926年5月3日に渋谷から移り、1957年に亡くなるまでここで暮らしました。引っ越しは、64歳になった博士にとって、妻スエとともに抱いた、植物園をつくり、標本館を建てるといふ夢に向けて、さらなる採集と研究にまい進する新たな門出でした。



「牧野一家、終の住処へのお引越し」里見和彦 画

この30年余りの間に、庭は、各地から送られたり博士が採集したりした植物を植えて「我が植物園」となり、莫大な数の標本を収めるために牧野植物標品館が1941年に建てられました。

本展では、①1940年代に博士自身や知人の語った話を岡田要之助氏が書き取った資料（初公開）、②博士と家族の思い出をよみかえらせる太田隆司氏によるペーパーアートの作品、③博士の大泉周辺での活動がわかる資料、④博士と記念庭園の歩みをイラストでたどる里見和彦氏の作品「牧野の庭の絵年表」の4部構成で、博士の暮らしぶりや研究活動を振り返ります。



「Plants and Life at Nerima」太田隆司 作

基本情報・問い合わせ先

企画展「牧野富太郎、大泉に来て100年 夢の時間を植えつづけて」

会期：令和8年4月22日(水)～6月29日(月)

休園：火曜(ただし5月5日(火)は祝日のため開園し、7日(木)が休園となります)

時間：午前9時30分～午後4時30分

入場：無料

会場：練馬区立牧野記念庭園記念館

所在地：東京都練馬区東大泉6-34-4

TEL 03-6904-6403 FAX 03-6904-6404

E-mail makinoteien@mist.ocn.ne.jp

URL <https://www.makinoteien.jp/>

展覧会関連イベントについては、チラシ裏面をご覧ください。

植物学者・牧野富太郎博士について

日本の植物分類学の父とされる牧野富太郎は、1862(文久2)年4月24日に高知の佐川村(現佐川町)に生まれました。幼い頃より植物に親しみ、ほぼ独学で植物を研究、東京帝国大学理科大学(現東京大学理学部)の植物学教室で助手と講師を長年務めました。生涯に発見・命名した植物は1,500種類以上、収集した標本は約40万点、研究のために収集した書籍は約4万5千冊にのぼります。また、“牧野式植物図”と呼ばれる正確な図を描いたことでも知られています。

1940(昭和15)年には代表的著作『牧野日本植物図鑑』(北隆館)を刊行しました。

1926(大正15)年に渋谷から北豊島郡大泉村(現練馬区立牧野記念庭園の所在地)に移り住み、1957(昭和32)年に満94歳で没するまでの約30年をこの地で過ごしました。



牧野富太郎、東大泉の自宅にて



牧野富太郎が原図を描いた『大日本植物志』に載るヤマザクラの図

牧野富太郎の代表的著作『牧野日本植物図鑑』北隆館、1940年



牧野記念庭園の紹介

牧野富太郎博士が1926(大正15)年から94歳で亡くなる1957(昭和32)年まで居住し、自らが採集してきた植物を植え、「我が植物園」として愛した住居跡を整備した庭園。牧野博士の没後、博士ゆかりの地を広く一般に開放し、博士の偉業を末永く後世に伝えようと、練馬区が1958(昭和33)年に開園しました。園内には300種類以上の草木類が生育しており、スエコザサ、サクラ‘仙台屋’、ヘラノキなど、学問的にも貴重な植物を多数見ることができます。



常設展示室では牧野富太郎博士が植物採集や研究のため愛用した道具などを展示し、研究活動や生活の様子を紹介しています。書屋展示室では書齋と書庫の一部を当時のまま保存。2023(令和5)年4月から博士が晩年過ごした様子を再現し公開しています。



練馬区立牧野記念庭園

開園時間：午前9時から午後5時まで

休園日：毎週火曜日(ただし、火曜日が祝休日にあたる場合はその直後の祝休日でない日)、年末年始(12月29日～1月3日)

入園料：無料

牧野記念庭園は東京都指定文化財(名勝および史跡)です。